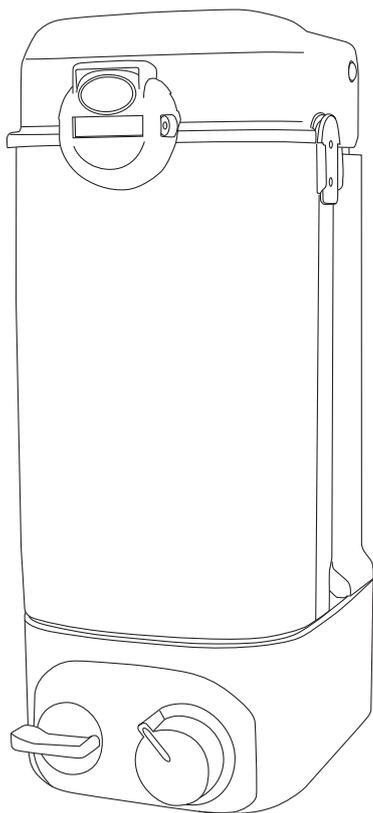


クーデック[®] PinPot Joe

取扱説明書



この度は、クーデックキューインポットジョーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本品を使用する際には、必ずこの取扱説明書をお読みいただき、お取り扱いくださいますようお願い致します。



COOPDECH

目次

安全上の注意	3
禁忌・禁止	3
使用上の注意	3
製品概要	4
製品の概要	4
性能・使用目的	5
安全機構	5
各部の名称と働き	6
吸引器本体	6
ライナー	7
使用方法	8
1. 吸引器本体の設置	8
2. 吸引の準備	9
3. 吸引の開始・停止	10
4. ライナーの取り出し	11
5. A. ライナーの廃棄(凝固タイプ)	12
5. B. ライナーの廃棄(排出タイプ)	12
ご使用後は	13
1. 保管方法	13
保守点検	14
1. 洗浄・分解・組立	14
2. 消耗部品の交換・耐用年数	14
3. 参考	15
4. 日常点検	15
5. 定期点検	15
トラブルシューティング	16
日常点検チェックリスト	17

安全上の注意

⚠ 禁忌・禁止

- ライナーは再使用禁止。

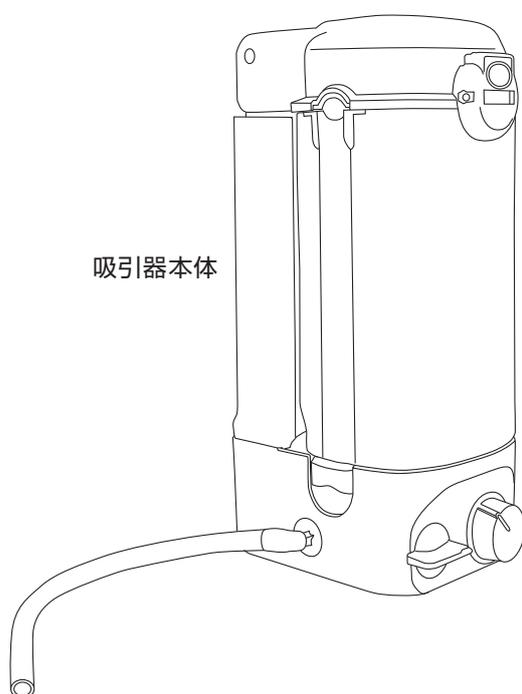
⚠ 使用上の注意

<使用方法等に関連する使用上の注意>

1. 使用前に、吸引器本体及びライナー並びに各チューブや先端具等の接続状態、更に医療ガス配管設備との接続状態等の点検を行い、本品が正常に作動することを確認すること。
2. 使用する流量及び圧力に関しては、術法、対象部位、大きさ、患者の体格と年齢、使用者の経験及び技法を勘案して行うこと。
3. 吸引器本体のコントローラを調整しても、医療ガス配管設備以上の吸引圧力にはならないので注意すること。
4. 一つの医療ガス配管設備では一つの吸引を行い、ふたまた等の同時使用はしないこと。
5. 吸引器本体を固定用フックに確実に取り付けすること [取り付けが不完全な場合、わずかな衝撃や振動で吸引器本体が落下するおそれがある]。
6. ライナーを吸引器本体にセットする時は、ライナーのテープを外さないこと [ライナーが正常に膨らまないおそれがある]。
7. 過貯溜防止装置が作動して吸引が停止した場合、そのまま放置せず速やかにライナーを交換、廃棄すること [過貯溜防止装置の成分が流出するおそれがある]。
8. ライナーは樹脂製品なので、吸引器本体にセットする時に傷等をつけないように注意すること [圧力がかかった時に破裂するおそれがある]。
9. ライナー内の排液が1000mLに到達するまでに吸引を中止すること。
10. ライナーを交換する時は、吸引チューブを抜き取り、ライナーのアダプタにアダプタキャップをし、コントローラをOkPaの位置に戻してから蓋を開けること。
11. 使用後は、アダプタキャップをアダプタに確実にはめること。
12. ライナーのEOG滅菌やオートクレーブ及びウォッシュャーステリライザーによる熱湯消毒等は避けること。
13. 蓋のパッキングが、アダプタに乗り上げないように蓋を閉めること [気密が確保できず、吸引できないおそれがある]。
14. 吸引を行わない時は、必ず本品のオン・オフレバーを右回転し、オフにすること [吸引を再開する際、吸引できなくなるおそれがある]。
15. 医療ガス配管設備の吸引供給装置以外には接続しないこと [陽圧やその他の配管に接続すると患者、使用者及び装置に損傷を与える、又は装置の性能が変化するおそれがある]。
16. 本品の使用は適切な教育を受講後、行うこと。
17. 本品を使用する前には、必ず取扱説明書及び添付文書を熟読し、その内容を理解した上で使用すること。
18. 本品の使用者は、各術法に応じた使用を行うこと。
19. 本品を採血用吸引器として、絶対に使用しないこと。
20. 吸引チューブを直接患者に適用せず、必ず先端部に適切な先端具を接続して使用すること。
21. 吸引器本体及びライナー並びに先端具等は、使用前に損傷が無いか、又は著しい劣化が無い点検すること [排液の漏れ、又は飛散による周囲環境汚染のおそれがある]。
22. 使用中に異常を感じた時は、使用を中止すること [排液の漏れ、又は飛散による周囲環境汚染のおそれがある]。
23. 本品の使用後は次の事項に注意すること。
 - 定められた手順により、オン・オフレバー、コントローラ等を使用前の状態に戻した後、医療ガス配管設備の供給状態を停止し、その後接続を切ること。
 - チューブ類の取り外しに際しては、無理な力を掛けないこと。
24. 使用後のライナーを処理する場合は、院内の「廃棄物処理規定」に従って処理すること。
25. 使用後、ライナー内の排液を排出する際の操作は全て、手袋、マスク、ゴーグル等の保護具を着用して行うこと。
26. 本品の分解・改造は絶対にしないこと [正常に作動しなくなるおそれがある]。
27. 本品を廃棄する際は、必ず殺菌・滅菌処理した後、医療廃棄物処分業者に廃棄を依頼すること。
28. 本品が故障した場合は、必ず専門家に修理を依頼すること。また、消耗品は当社純正部品を使用すること [不完全な修理、部品の交換は正常な機能や安全の保証ができなくなる]。
29. 本品及び部品は必ず定期点検を行うこと。
30. しばらく使用しなかった時は、使用前に必ず正常且つ安全に作動することを確認すること。
31. 吸引器本体を滅菌する場合、EOG滅菌 (温度50℃以下、湿度75%Rh以下) 以外に行わないこと。
32. 本品を清拭する場合、有機溶剤 (アルコール等) を使用しないこと [ひび割れ等、損傷の原因になる]。

製品概要

製品の概要



吸引器本体



ピン式配管コネクタセット(別売)



シュレーダ式配管コネクタセット(別売)

■ 規格

品番	品名	仕様
CQR11-Y	キューインポットジョーイエロー	イエロー
CQR11-P	キューインポットジョーピンク	ピンク
CQR11-G	キューインポットジョーグリーン	グリーン
CQR11-B	キューインポットジョーブルー	ブルー
QPS-101H	ピン式配管コネクタセット(別売)	配管保護装置付き 配管コネクタ:ピン式(川重・ユニ式)
QPS-102H	シュレーダ式配管コネクタセット(別売)	配管保護装置付き 配管コネクタ:シュレーダ式(アムコ式)
QPS-103	落下防止ピン(別売)	ピンフック用
QPS-104	落下防止ネジ(別売)	スライドフック用
QPS-105H	チューブホルダ	キューインポットジョー専用
CQD10-H	キューインポットライナー排出タイプ(別売)	凝固剤無し
CQD10-G	キューインポットライナー凝固タイプ(別売)	凝固剤有り

製品概要

性能・使用目的

1. 性能

1) 吸引圧力調整範囲

- 患者適用吸引圧力：0～-60kPa（緊急時最高吸引圧力-80kPa）

※ コントローラを右回転すると、-60kPaで回転ストッパーに当たって停止します。しかし、その状態から更にコントローラを右回転することで、回転ストッパーを越えて約60°回転することができます。これは、吸引チューブが組織等で万一詰まった時に、その詰まりを除去するために緊急的に適用するための措置です。

2) 真空指示器の精度

最大設定圧力の±10%

3) 排液貯溜容量

1000mL

4) 使用環境

周囲温度5～40℃

相対湿度20～90%（結露なきこと）

2. 使用目的

病院の医用ガス供給システムから供給される陰圧を利用して、液体又は粒状物質の吸引等の治療に用いる装置である。

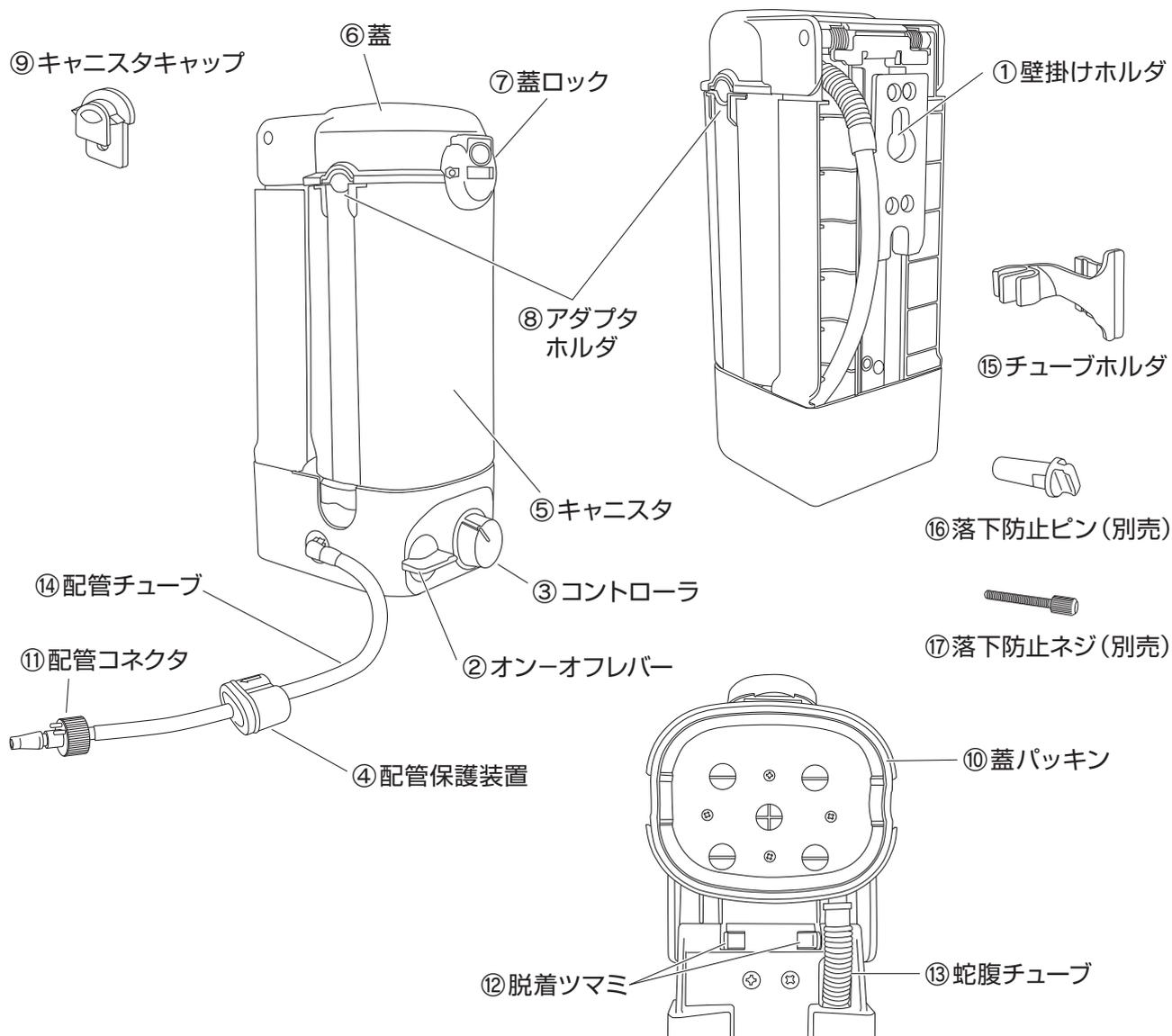
※ 吸引器本体のコントローラを調整しても、配管設備能力以上の吸引圧力にはなりません。

安全機構

- 1) ライナーの入口に逆止弁を内蔵することにより、ライナー内の排液の急な飛び出しを防止する構造になっています（逆止弁の構造上、微量の排液が漏れる可能性がありますので、使用後はアダプタにアダプタキャップをはめてください）。
- 2) ライナーに過貯溜防止装置を設けることにより、ライナーの容量を超えた唾液、血液、組織液等の体液が混入した排液の吸引を防止する構造になっています。
- 3) 吸引器本体内に配管保護装置を設けることにより、万一ライナーから排液が漏出した場合にも、漏出した排液が配管設備を汚染することを防止する構造になっています。
- 4) 吸引器本体内に圧力調整機構を設けることにより、設定吸引圧力を超える吸引圧力が発生することを防止する構造になっています。

各部の名称と働き

吸引器本体

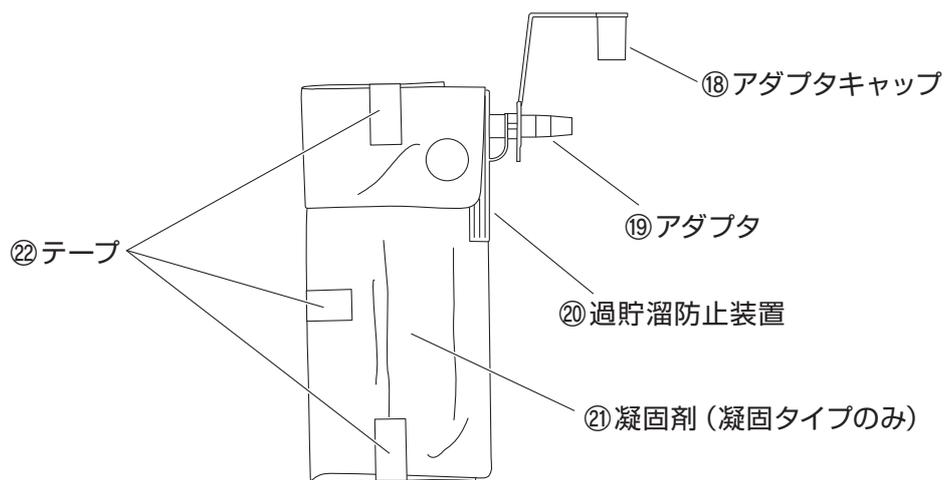


名称	内容
① 壁掛けホルダ	吸引器本体を壁の固定用フックに固定します。
② オン-オフレバー	吸引の開-閉をします。
③ コントローラ	吸引圧力の調整をします。
④ 配管保護装置	排液の漏出による配管の汚染を防止します。 ※消耗品
⑤ キャニスタ	ライナーを入れます。
⑥ 蓋	キャニスタを密閉します。
⑦ 蓋ロック	蓋をキャニスタに固定します。
⑧ アダプタホルダ	ライナーをキャニスタに固定します。
⑨ キャニスタキャップ	使用しない側のアダプタホルダを密閉します。
⑩ 蓋パッキン	蓋とキャニスタの隙間を密閉します。
⑪ 配管コネクタ	壁配管と吸引器本体を接続します。
⑫ 脱着ツマミ	蓋の取り外し時に使用します。

各部の名称と働き

⑬ 蛇腹チューブ	吸引圧力を蓋に導入します。
⑭ 配管チューブ	壁配管からの吸引圧力を吸引器本体に導入します。
⑮ チューブホルダ	患者側の吸引チューブ先端を上向きに保持し、液だれを防止します。
⑯ 落下防止ピン(別売)	壁の固定用フックがピンフックの場合に吸引器本体の落下を防止します。
⑰ 落下防止ネジ(別売)	壁の固定用フックがスライドフックの場合に吸引器本体の落下を防止します。

ライナー



名称	内容
⑱ アダプタキャップ	排液の逆流を防止します。
⑲ アダプタ	吸引チューブを接続します。 排液の急な飛び出しを防止する逆止弁を内蔵しています。
⑳ 過貯溜防止装置	排液の過貯溜を防止します。
㉑ 凝固剤 (凝固タイプのみ)	排液を凝固します。
㉒ テープ	ライナーが適切に膨らむように形を整えています。

使用方法

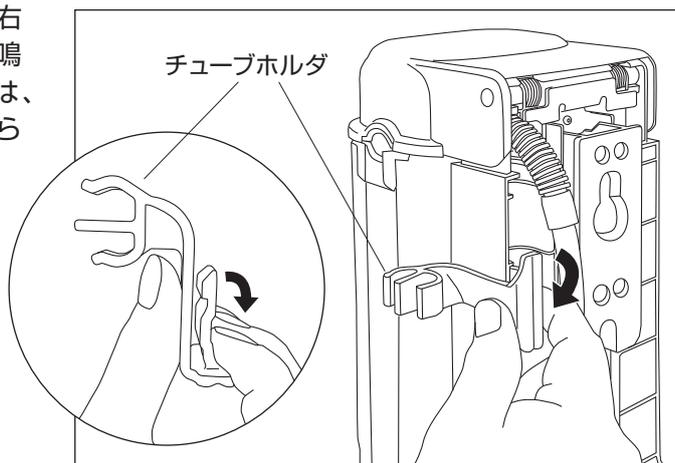
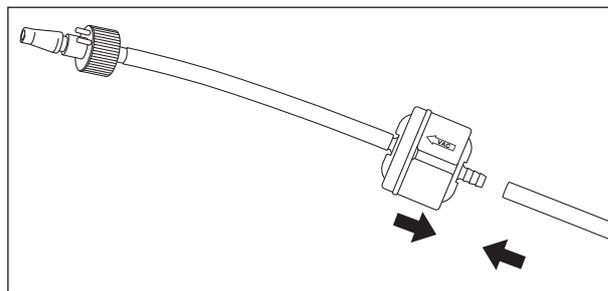
1 吸引器本体の設置

1. 別売の配管コネクタセットを配管チューブに確実に接続します。必要に応じ、はさみ等で配管チューブの長さを調整してください。

⚠ 注意

- 配管チューブの長さの調整はチューブ表面を傷つけないように行ってください。

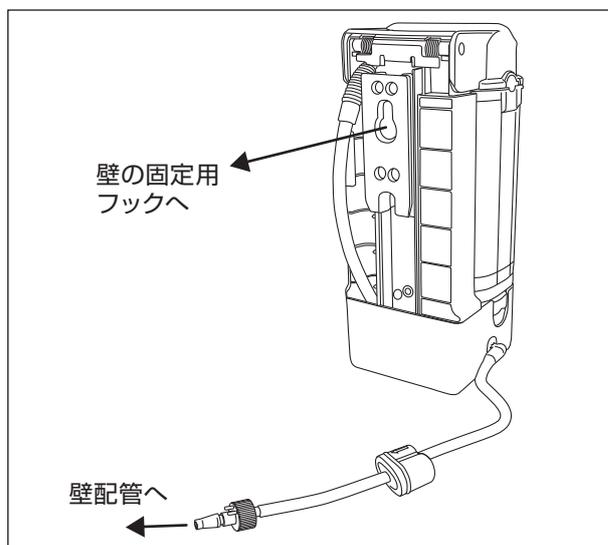
2. チューブホルダを吸引器本体の裏のくぼみ（左右それぞれ5か所）の任意の位置にカチッと音が鳴るまで差し込んで取り付けます。取り外す時は、図のようにチューブホルダを外側にひねりながら手前に引っ張ってください。



3. 壁掛けホルダを壁の固定用フックに取り付け、配管コネクタを壁配管に接続します。

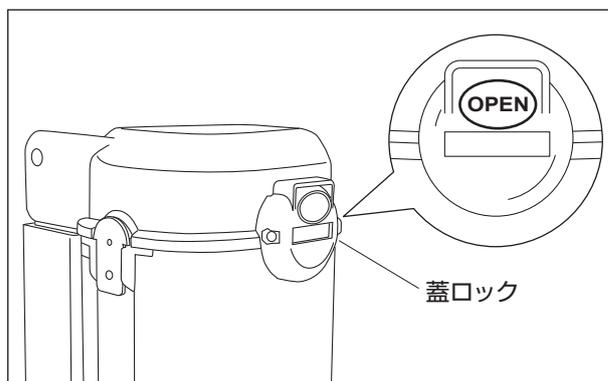
⚠ 注意

- 吸引器本体を固定用フックに確実に取り付けてください。取り付けが不完全な場合、わずかな衝撃や振動で吸引器本体が落下するおそれがあります。
- オン・オフレバーがOFFになっている状態で配管コネクタを接続してください。



4. 蓋ロックの OPEN 部を押して蓋を開けます。別売の落下防止ピン又はネジを使用する場合は、キャニスタを手前に倒します。その後、壁の固定用フックがピンフックの場合は落下防止ピン、スライドフックの場合は落下防止ネジを図のように取り付け、キャニスタを元に戻します。

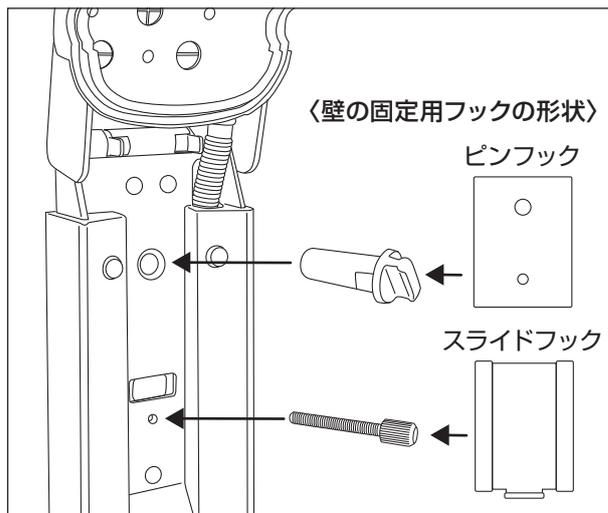
※キャニスタが邪魔になって落下防止ピン又はネジが取り付けにくい場合は、キャニスタを取り外すことができます。P.14「1 洗浄・分解・組立」の「分解・組立」の「1」の手順を参照してください。



使用方法

⚠ 注意

- 壁の固定用フックの形状によっては、落下防止ピン及びネジを取り付けても落下を防止できない場合があります。

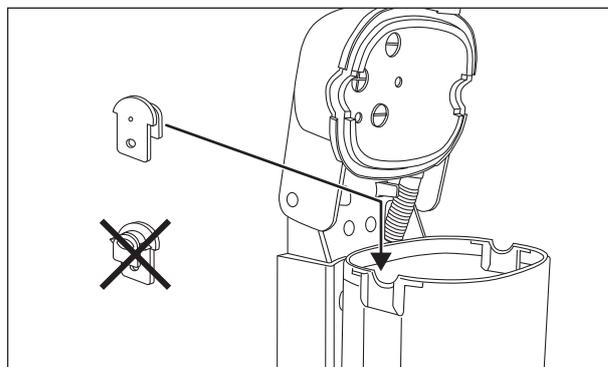


2 吸引の準備

1. キャニスタキャップを、ライナーを取り付けない側のアダプタホルダに取り付けます。

⚠ 注意

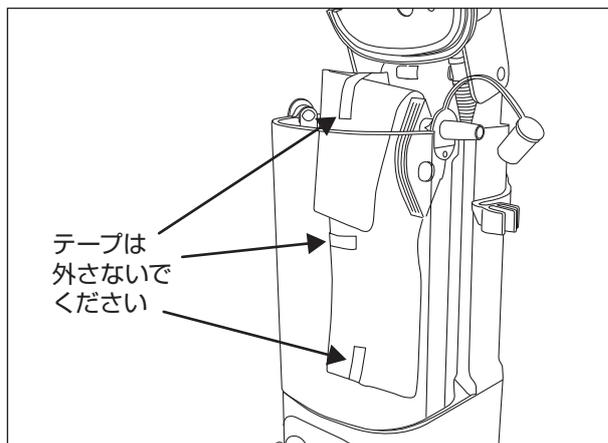
- 必ずキャニスタキャップを取り付けてください。取り付けないと、吸引ができません。



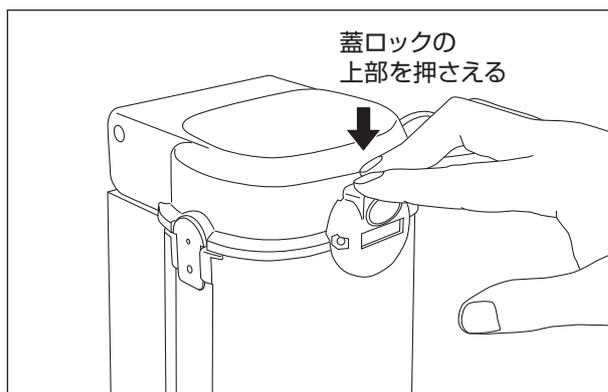
2. ライナーのテープは外さずに、ライナーのアダプタをキャニスタのアダプタホルダに取り付けます。

⚠ 注意

- テープを外すと、ライナーが正しく膨らまないことがあります。



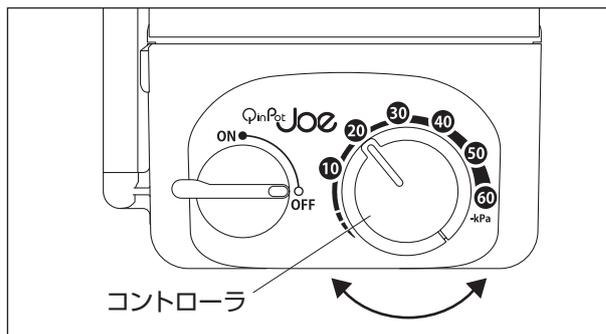
3. ライナーの挟み込みに注意して、蓋を確実にロックします。蓋パッキンがライナーのアダプタに乗り上げていないことを確認してください。



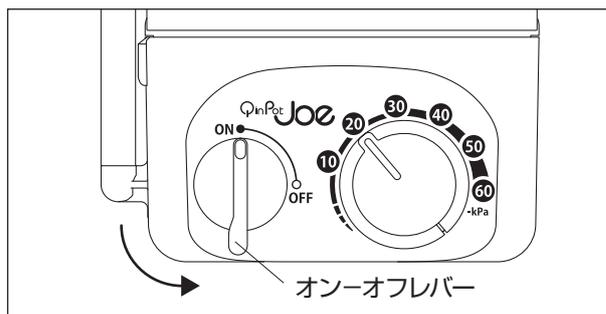
使用方法

3 吸引の開始・停止

1. コントローラを回し、吸引圧力を設定します。大きな圧力に設定しようとしていることをお知らせするために、-30kPa前後の位置に軽い抵抗があります。



2. オン-オフレバーを反時計回りに90°回転してONの位置に切り替え、吸引圧力を吸引器本体に導入します。



⚠ 注意

- オン-オフレバーを中間位置で止めると誤作動の原因となりますので、必ずON又はOFFの位置に確実に切り替えて使用してください。

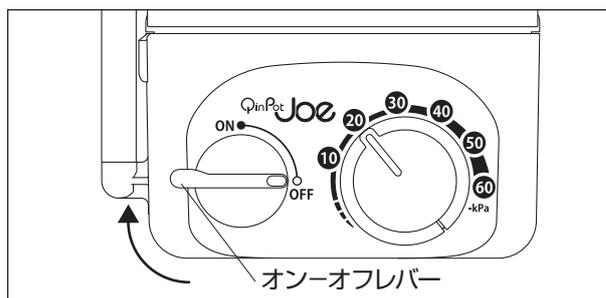
3. アダプタキャップが外れている事を確認し、ライナーを膨らませた後、患者側の吸引チューブをアダプタに接続します。ライナーの膨らみが十分でない時は患者側の吸引チューブを接続する前に吸引圧力を上げてください。ライナーが膨らんだら、吸引圧力を元の設定に戻してください。

4. 吸引器具の先端に吸引圧力が発生していることを確認してから、吸引を開始します。

⚠ 注意

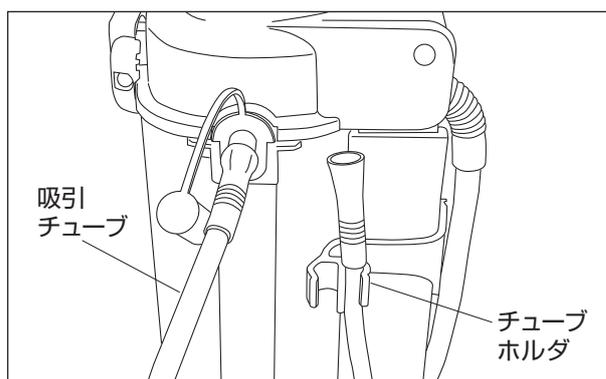
- 吸引を1000mL以上行わないでください。ライナーが取り出しにくくなったり、吸引終了後に蓋が開きにくくなります。
- アルコール等の有機溶剤を吸引しないでください。ライナーの過貯溜防止装置からの排液漏れや、凝固不良の原因になります。

5. 吸引を停止させる時は、オン-オフレバーを時計回りに90°回転させ、OFFの位置に切り替えます。吸引停止中は必要に応じ、チューブホルダに患者側の吸引チューブを保持することができます。液だれを防止するため、チューブ先端を上向きにして保持することをお勧めします。



⚠ 注意

- 吸引を行わない時は、必ずオン-オフレバーをOFFの状態にしてください。



使用方法

4 ライナーの取り出し

⚠ 注意

- 過貯溜防止装置が作動して吸引が停止した場合、そのまま放置せずに速やかにライナーを交換・廃棄してください。長時間放置すると過貯溜防止装置の成分が流出するおそれがあります。

1. 吸引を停止させた後、患者側の吸引チューブを取り外し、アダプタキャップをアダプタに確実に取り付けます。

⚠ 注意

- 以後の操作は全て、手袋、マスク、ゴーグル等の保護具を着用して行ってください。

2. コントローラを反時計回りに回して吸引圧力を最小にし、蓋ロックのOPEN部を押して蓋を開けます。

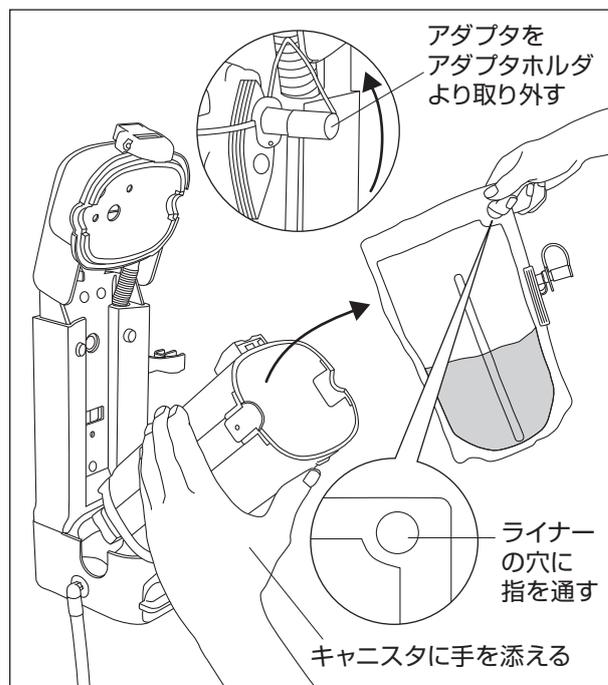
⚠ 注意

- 吸引直後は、内部が陰圧のため、蓋が開かないことがあります。蓋が開かない時は、しばらく時間を置いてから開けてください。

3. 必要に応じキャニスタを手前に倒して、キャニスタを手で押さえながらアダプタホルダからライナーのアダプタを取り外します。ライナー上部の穴に指を通し、ライナーを取り出します。キャニスタを手前に倒した場合は、ライナーを取り出した後、キャニスタを元に戻します。

⚠ 注意

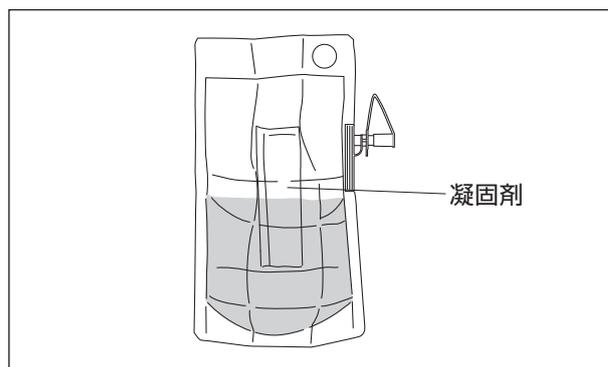
- キャニスタを手前に倒す際には、急に倒れないよう手を添えてください。
- ライナーのみを持って引っ張らないでください。吸引器本体と一緒に持ち上がり壁の固定用フックから脱落するおそれがあります。
- キャニスタを元に戻す際には手を添え、指などを挟まないよう注意しながら静かに戻してください。



使用方法

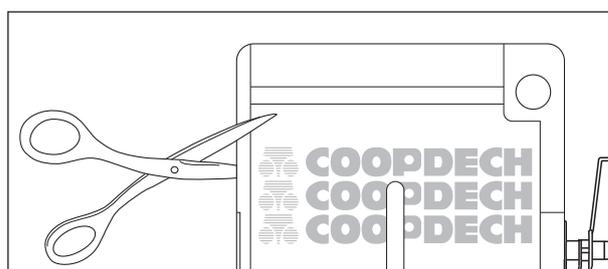
5 A. ライナーの廃棄(凝固タイプ)

1. 排液吸引時に凝固剤が、水溶性の凝固剤袋から自動的に投入されています。
排液が凝固していない場合は、ライナーを取り出した後、外部より軽く揉みほぐして凝固剤を分散させてください。
2. 排液が完全に凝固したことを確認した後、ライナーを院内の「廃棄物処理規定」に従って処理してください。



5 B. ライナーの廃棄(排出タイプ)

1. 排液の排出が可能です。排液の飛び出しに注意しながらライナーを切り、院内の「廃棄物処理規定」に従って排液の排出を行ってください。
2. ライナーを院内の「廃棄物処理規定」に従って処理してください。



ご使用後は

ご使用後は、清掃を行い、正しく保管してください。

⚠ 注意

- 液体に浸して洗淨しないでください。液体が製品内部にしみ込みますと、樹脂や金属が劣化・腐食するおそれがあります。
- 吸引器本体を滅菌する場合には、EOG滅菌（温度50℃以下、湿度75%Rh以下）以外は行わないでください。
- 有機溶剤（アルコール等）は使用しないでください。ひび割れ等損傷の原因になります。
- 消毒剤例を下記に示します。消毒剤の希釈率等は、各消毒剤の添付文書に従ってください。
塩化ベンザルコニウム水溶液（オスバン等）
塩化ベンゼトニウム水溶液（ハイアミン等）
クロルヘキシジン水溶液（ヒビテン等）
- 次亜塩素酸ナトリウムは条件付きで使用可能です。詳しくは弊社担当者までお問い合わせください。
- 消毒剤を使用した場合は、水又はぬるま湯を浸したやわらかい布等で消毒剤をふき取り、清潔でやわらかい布等で余分な湿気を取ってください。

1 保管方法

本品を保管する場合には、次の事項に注意してください。

1. 水のかからない場所に保管すること。
2. 気圧、温度、湿度、風通し、日光、紫外線、ほこり、塩分やイオウ等を含んだ空気などにより悪影響の生じるおそれの無い場所に保管すること。
3. 傾斜、振動、衝撃等、製品の安定状態に注意すること。
4. 化学薬品のそばやガスの発生するような場所に保管しないこと。
5. 保管環境 周囲温度：-5～40℃
相対湿度：10～95%（結露なきこと）

保守点検

1 洗浄・分解・組立

● 洗浄

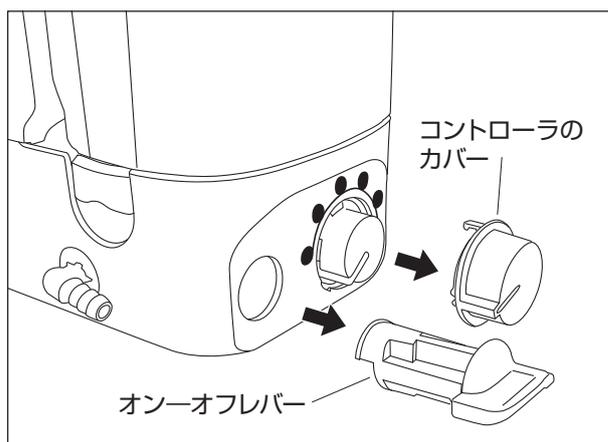
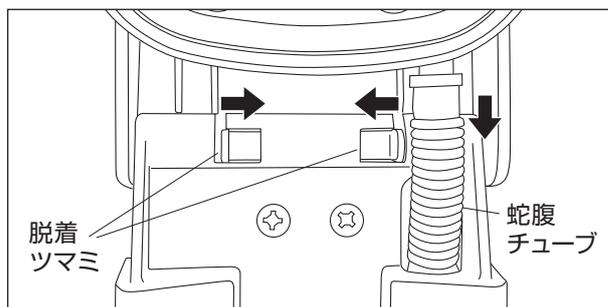
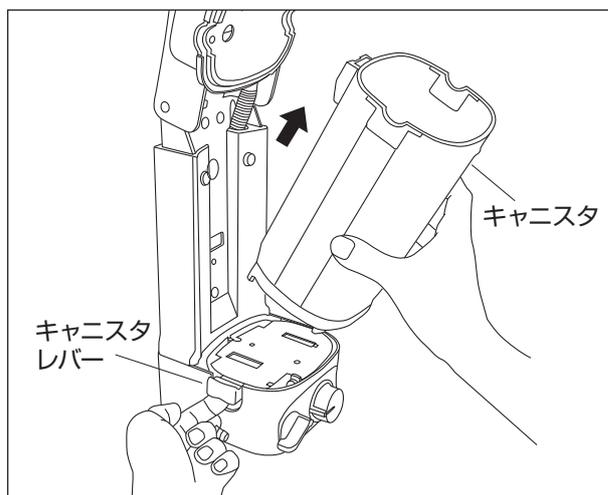
キャニスタ、キャニスタキャップ、蓋、チューブホルダ、オンオフレバー及びコントローラのカバーが汚れた場合は、分解・洗浄が可能です。

⚠ 注意

- キャニスタ、キャニスタキャップ、蓋、チューブホルダ、オンオフレバー及びコントローラのカバー以外は洗浄不可能です。
- 洗浄後は水分をよく切り、日陰で完全に自然乾燥させた後、組み立ててください。

● 分解・組立

1. キャニスタレバーを引きながらキャニスタを持ち上げて取り外します。
2. 蛇腹チューブを蓋から引き抜いた後、脱着ツマミを内側にスライドさせ、蓋を取り外します。
3. チューブホルダを外側にひねりながら手前に引っ張るようにして取り外します。
4. オンオフレバー及びコントローラのカバーを引き抜くようにして取り外します。
5. 分解と逆の手順で組み立てを行います。キャニスタは、キャニスタレバーを引かなくても取り付けることができます。また、オンオフレバー及びコントローラのカバーは、正しい角度でのみ取り付けられるようになっています。
6. 組立後は、日常点検を行ってください。



2 消耗部品の交換・耐用年数

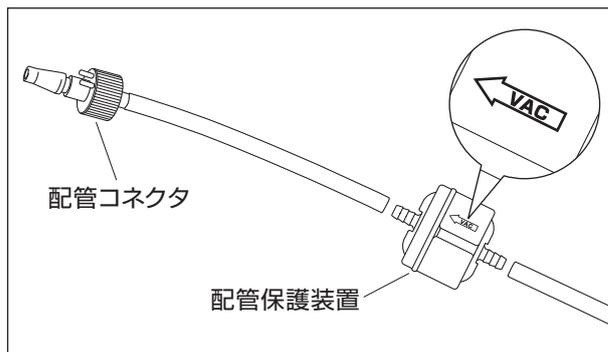
● 配管保護装置の交換

- 配管保護装置が作動し吸引しなくなった時、吸引力の低下を感じられた時、及び内部のフィルタが汚れた時は、配管保護装置の交換を行ってください。

保守点検

● 配管保護装置の交換手順

1. オン・オフレバーをOFFの状態にします。
2. 配管保護装置から配管コネクタ側のチューブを外します。
3. 配管保護装置から配管チューブを外し、新しい配管保護装置を取り付けてください。
4. 新しい配管保護装置に配管コネクタ側のチューブを取り付けます。



⚠ 注意

- 配管保護装置の接続方向に注意してください。側面の矢印マークが配管コネクタ側になるよう接続してください。
- 配管保護装置の交換時は、手袋・マスク・ゴーグル等の保護具を着用して行ってください。

● 耐用年数

- 指定の保守・点検を実施した場合の耐用期間：5年（自己認証（当社データ）による）
- 耐用年数は使用環境により変動します。

3 参考

● 圧力単位換算表

	kPa×7.5=mmHg							
kPa	10	20	30	40	50	60	70	80
mmHg	75	150	225	300	375	450	525	600

4 日常点検

- 外観／亀裂、損傷、変形、変色及び劣化が無いかを目視で確認してください。
- 各部の点検／亀裂、損傷、変形、変色、劣化及び取り付け位置のズレが無いかを目視で確認してください。
- 蓋／開閉にガタが無く、スムーズに行えるかどうかを確認してください。
蓋パッキンがめくれていないか確認してください。
- コントローラ／回転がスムーズに行えるか、コントローラの回転に伴い、吸引圧力が変化するかを確認してください。
- オン・オフレバー／吸引が正常に開始・停止するか確認してください。
- 配管保護装置／内部に水分（水滴）が無いことを確認してください。
- キャニスタ／手前に倒して戻す動作がスムーズに行えるか確認してください。

⚠ 注意

- 各点検で異常が認められた場合は、直ちに使用を中止し、弊社担当者までご連絡ください。
- 落下・衝撃が加わった場合は、吸引器本体の外観及び動作に異常が見られない場合でも直ちに使用を中止し、弊社担当者までご連絡ください。

5 定期点検

安全に、より長くお使いいただくために、1～2年に一度を目安に定期点検を実施してください。
定期点検につきましては、弊社担当者までお問い合わせください。

トラブルシューティング

現象	原因	対処方法
吸引しない	配管コネクタが吸引源に接続されていない	配管コネクタの接続を確認してください
	オン・オフレバーがOFFになっている	オン・オフレバーをONにしてください
	コントローラの圧力設定値が最小になっている	圧力設定値を上げてください
	キャニスタキャップが外れている	キャニスタキャップを取り付けてください
	キャニスタキャップが正しく付いていない	キャニスタキャップを付け直してください
	ライナーが正しく取り付けられていない(ライナーが蓋とキャニスタに噛み込んでいる)	ライナーを付け直してください
	ライナーの過貯溜防止装置が作動している	ライナーを新しいものに交換してください
	吸引チューブが抜けている 又は、抜けかけている	吸引チューブとライナーとの接続を確認してください
	蓋パッキン、キャニスタキャップが劣化し、 破れや亀裂がある	修理をお申し付けください
	配管チューブ、吸引チューブが折れ曲がっている	チューブを確認してください
	蛇腹チューブが蓋に確実に接続されていない	蓋を開き、蛇腹チューブが蓋に接続されているか確認してください
	キャニスタが確実に取り付けられていない	キャニスタを確実に取り付けてください
	キャニスタに亀裂・損傷がある	修理をお申し付けください
	蓋が正しく取り付けられていない	蓋を正しく取り付けてください
	蓋とキャニスタに隙間がある	修理をお申し付けください
	配管保護装置と配管チューブが抜けている	配管保護装置と配管チューブを正しく接続してください
	配管保護装置が作動している	配管保護装置を交換してください
	配管保護装置内のフィルタが汚れている	配管保護装置を交換してください
上記以外の原因	修理をお申し付けください	
吸引が弱い	コントローラの圧力設定値が最小付近になっている	圧力設定値を上げてください
	蓋パッキン、キャニスタキャップが劣化し、 破れや亀裂がある	修理をお申し付けください
	配管チューブ、吸引チューブが折れ曲がっている	チューブを確認してください
	蓋とキャニスタに隙間がある	修理をお申し付けください
	配管保護装置が作動している	配管保護装置を交換してください
	配管保護装置内のフィルタが汚れている	配管保護装置を交換してください
	上記以外の原因	修理をお申し付けください
吸引圧力の調整ができない	コントローラが回らない	修理をお申し付けください

上記の項目に該当しない場合は、弊社担当者までお問い合わせください。

日常点検チェックリスト

製造番号： 年月日： / / 担当：

使用前点検（毎回）

1	吸引器本体の外観に亀裂や劣化等の異常はありませんか？	OK	NG
2	各部に亀裂や劣化、及び取り付け位置のズレはありませんか？	OK	NG
3	蓋の開閉にガタつきはありませんか？	OK	NG
4	蓋パッキンに傷、めくれ等はありませんか？	OK	NG
5	キャニスタキャップは確実に取り付けられていますか？	OK	NG
6	コントローラの回転はスムーズに行えますか？	OK	NG
7	コントローラの回転に伴い、吸引圧力は変化しますか？	OK	NG
8	オン・オフレバーの操作で、吸引が正常に開始・停止しますか？	OK	NG
9	配管保護装置内に水分（水滴）はありませんか？	OK	NG
10	キャニスタを手前に倒して戻す動作はスムーズに行えますか？	OK	NG
総合判定		OK	NG

⚠ 注意

- 各点検で異常が認められた場合は、直ちに使用を中止し、弊社担当者までご連絡ください。
- 落下・衝撃が加わった場合は、吸引器本体の外観及び動作に異常が見られない場合でも直ちに使用を中止し、弊社担当者までご連絡ください。

製造販売業者

 **大研医器株式会社**

〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野2-6-2

製作担当

2004B (社内管理番号: 02204510-J02)